

2017 年 10 月 20 日
株式会社ジェイアール東日本ビルディング

～フランス料理人 中村勝宏氏の基調講演と大学講義が無料で受講できる～ サピアタワー「東京オトナ大学」12/3(日)開催

株式会社ジェイアール東日本ビルディング（代表取締役社長 田邊 滋）は、東京ステーションシティのサピアタワーにおいて、12月3日（日）に『東京オトナ大学』を開催いたします。第7回目を迎える今回は、日本人として初めてミシュランの一つ星を獲得したフランス料理人の中村勝宏氏による基調講演のほか、サピアタワーに入居している 10 大学の教授が、地方創生や観光先進国、モチベーションなどの様々なテーマについて「これからの日本」を考える講義を行います。



日本ホテル株式会社・

基調講演 中村 勝宏 氏

ホテルメトロポリタンエドモント

取締役統括名誉総料理長

1970 年に渡欧。フランス各地の有名店でプロの料理人として活躍。1979 年にパリ「ル・ブールドネ」のグランシェフ時代に、日本人で初めてミシュランの一つ星を獲得。以降 4 年間星を維持する。1984 年に帰国後、ホテルエドモント開業とともにレストラン統括料理長となる。1994 年常務取締役総料理長に就任。2008 年の北海道洞爺湖サミットでは総料理長として全ての料理の指揮を執る。2015 年クルーズトレイン「TRAIN SUITE 四季島」（JR 東日本/2017 年 5 月運行開始）の料理監修。2016 年には日本人の料理人で 2 人目となるフランス共和国農事功労章の最高位「コマンドゥール」叙勲。2017 年には日本初の国連食糧農業機関（FAO）親善大使に就任。著書多数。

【実施概要】

- 名称：「東京オトナ大学」（とうきょうおとなだいがく）
- 日程：2017 年 12 月 3 日（日） 13:00～18:00 （受付開始 12:00）
- 会場：〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー5・6 階 ステーションコンファレンス東京
- 主催：株式会社ジェイアール東日本ビルディング
- 協賛（講義提供）：
東京大学 先端科学技術研究センター、東北大学、北海道大学、関西大学、関西学院大学、甲南大学、産業能率大学総合研究所、西南学院大学、立命館大学、流通科学大学
- 協力：東日本旅客鉄道株式会社、東京ステーションシティ運営協議会
- 参加：無料、WEB サイト（<http://www.otonadaigaku.jp/>）での事前申込制（11 月 2 日受付開始予定）
- 一般問い合わせ：東京オトナ大学事務局 TEL 03-6406-0762（平日 11:00～18:00）

【本件に関するお問い合わせ先】

（株）ジェイアール東日本ビルディング 総務部 広報室 担当：鈴木

TEL:03-6859-2364 FAX:03-6859-2392

東京駅サピアタワー・知性と出会う

東京 TOKYO STATION CITY SAPIATOWER

東京オトナ大学

TOKYO OTONA UNIVERSITY

講演・講義一覧

■基調講演（15:00～16:00）

講演者	講演内容
日本ホテル株式会社・ ホテルメトロポリタン エドモント 取締役 統括名誉総料理長 なかむら かつひろ 中村 勝宏	食のおもてなし -洞爺湖サミットの場合- 北海道洞爺湖サミット総料理長のご経験を通じて、食のおもてなしの見地から、日本の食を背景とした、今後の観光の創造やインバウンド向けのアイデアについてお話しいたします。

■講義（13:00～14:30／16:30～18:00）

13:00～14:30

講義者	講義内容
北海道大学 観光学高等研究 センター 特任教授 きむら ひろし 木村 宏 	滞在型観光推進のための「歩く観光」を考える 訪日外国人の増加に伴い、滞在型観光のあり方も変化の兆しを見せています。主要都市の観光から地方に拡散した興味の対象は更に広く、深くその矛先を変え、農山漁村への滞在の欲求が高まりを見せています。地方都市での滞在プログラムの関心事の一つに、街や村、高原、森林、海岸、山岳などを「歩く」ことが挙げられます。フットパスや遊歩道、トレッキングルートの整備もあらたな展開を見せるなか、地域と地域を結ぶ「ロングトレイル」も静かなブームです。修験のみちから街なか、自然歩道など様々なスタイルの「みち」が今新たなファン層を築こうとしています。本講では新たに観光地に求められる「歩く観光」について考察します。
関西学院大学 専門職大学院 経営戦略研究科 教授 やまもと しょうじ 山本 昭二 	インバウンド需要を高めるためのMICEの役割 日本における国際会議の開催数は2, 847件であり、その参加者は177万人余りである。しかし海外からの参加者は17万人に過ぎない。地方都市において定期的に開催される会議やカンファレンスは観光産業だけではなく地域経済に貢献している。本講義では神戸市の医療産業特区において実施されている医療関係のMICEの事例を元にして地方都市における可能性を探ります。 講義では、ポートピアホテルの実践について話しをするとともにサービス・マーケティングの視点から観光マーケティングに関してもお話しします。
関西大学 社会安全学部 准教授 おくむら よしひろ 奥村 与志弘 	「北風の防災」から「太陽の防災」へー地域活性化と防災・減災の二兎を得るー 南海トラフ巨大地震や首都直下地震など、私たちが過去に経験したことのないような巨大災害の発生が、今や現実味を帯びた脅威として認識されています。しかし、防災意識は維持が困難であるため、「恐れるという意識」だけでいつ起こるか分からない将来の巨大災害の犠牲を減少させることは容易ではありません。本講義では、「地域をより魅力的にしたい」、「防災は専門ではないが、自分たちの強みを生かして新たな収益の柱を築きたい」など、「前向きな意識」を原動力とした防災・減災の可能性について考えてみます。

立命館学 文学部 特命教授 (学長特別補佐) ふじまき まさみ 藤巻 正己 	歓迎される観光者／歓迎されない観光者—国際観光都市京都が直面するジレンマ— 京都は国内外から5600万人もの観光者を迎える一大国際観光都市となりました。「そうだ京都、行こう」(JR東海)、「日本に、京都があつてよかった」(京都市)キャンペーンは、国内外で京都観光ブームを巻き起こし、SNSという新たなメディアの普及もあって、米国の大手旅行雑誌「トラベル・アンド・レジャー」においては2014・2015年連続、世界で最も魅力ある観光目的地として評価されるに至りました。しかしその一方で、「観光の現場」では、さまざまな問題・葛藤・せめぎあいが生じています。本講義では、国際観光都市を標榜する京都が直面するジレンマについて考えてみたいと思います。
西南学院大学 人間科学部 心理学科 教授 うらた ひでのり 浦田 英範 	心の健康について考えてみませんか？—ストレスとストレスマネジメント— 私たちの生きている社会はストレスに満ちあふれています。それとうまく付き合っていくのも大切です。今回は、ストレスとは何か？ストレスによって、人の心や体にどのような影響を与えるのか？これらをお話します。また影響を受けた後、人はどのような心理状態に陥るのかも説明します。これらの状況に陥ったらどのように、ストレスとうまく付き合うか？ストレスマネジメントについてもお話します。この講義の最後には、リラクゼーション法（特に総合リラクゼーション法）も体験して頂きます。そして、この講義が皆さんの実際のストレスマネジメントのヒントになる事を願っています。
流通科学大学 商学部 専任講師 はとう まさひこ 羽藤 雅彦 	ブランドはなぜ大切なのか 企業が管理するブランドと、日常生活で我々が言うブランドとはやや意味することが異なります。我々は普段、「そのブランド（たとえば、アップル）が好き」といったように、ブランドという言葉の名前とほぼ同義のものとして考え用いています。しかし、企業が管理する対象であるブランドは単に名前のみを示すわけではありません。本講義では、そんな企業が管理する対象としてのブランドについて、なぜそれが大切なのかをお話したいと思います。

16:30～18:00

講義者	講義内容
東京大学 先端科学技術研究センター、信州大学 教授兼任 たまい かつや 玉井 克哉 	地方創生と国立大学—東大先端研と信州大学社会基盤研の挑戦— 国立大学は、納税者から得た貴重な資金を「知」の形で国民に還元するためにある。そうした考え方の下で、東京大学先端科学技術研究センターと信州大学社会基盤研究センターが連携し、長野県や軽井沢町などと協力して、地域のさまざまな問題に応えるための枠組みを創ろうと図っています。たとえば、気候変動に対応してワインや農産物を地域特産品にするにはどうすべきか、観光シーズンの交通渋滞にどう対応するか、地域のブランド価値を高め、維持するにはどうすればよいか、といった問題です。大学の新たな役割を果たすための挑戦を、ご紹介します。
東北大学 大学院 農学研究科 教授 ふじい ともゆき 藤井 智幸 	日本食のおいしさと食品加工技術 厚生労働省は、国民の食塩摂取量を2022年度までに8gにまで減少させる目標を立てています。WHOの調査でも、脳卒中の年齢調整死亡率が24時間尿中食塩量と正の相関があることが明らかにされており、減塩は世界的な課題のひとつとなっています。ところが、減塩食材の業界では「減塩に美味いものなし」という認識が広まり、厚生労働省の目標を達成するにはおいしい減塩・無塩食材が求められていました。そこで、地元宮城県白石市の白石温麺製造企業と連携して、「無塩温麺」製造技術の開発に着手しました。このように東北大学は日本食のおいしさを探求しながら、減塩活動などの社会貢献に積極的に取り組んでいます。

甲南大学 名誉教授 うえむら 上村 くにこ 	進化する「死生学」—その目覚ましい変化の足跡をたどる— 「死生学」という学問はとても新しい学問で、1980年代に、西欧の「死学（death study）」を取り入れることから出発しました。「人間が死ぬとはどういうことか」を考える学問は、その後、社会学・宗教学・心理学・医学・哲学・福祉学・細胞生物学などの知見を学際的に取り入れて、アメリカやヨーロッパとは一味ちがう成果が見られるようになりました。日本独自の「死生学」が誕生しつつあります。その特徴は「生と死は切り離せない一つのものである」という基本姿勢ではないかと思います。その成果の一端をご紹介しますとともに、甲南大学で展開されている「死生学」の授業風景などもお伝えしたいと思います。
産業能率大学 総合研究所 主幹研究員 のま けんじ 野間 健司 	モチベーション心理学講座—自分自身でモチベーションを向上させるための技術— 本講演では、ビジネスモチベーショントレーニングの第一人者である産業能率大学主幹研究員野間健司が最新のモチベーションスキルを紹介します。具体的には、自分自身でモチベーションを向上させる技術（セルフモチベーションスキル）とは何かを学習していきます。モチベーションのメカニズムをしり、自身の感情をデザインし、未来にフォーカスして物事を捉えることなど、人生の目標設定をしていく上で役立つスキルや考え方を学んでいただきます。

東京駅サピアタワー・知性と出会う

東京 TOKYO STATION CITY SAPIATOWER

東京オトナ大学
TOKYO OTONA UNIVERSITY



【参考】サピアタワーと東京オトナ大学

開催場所であるサピアタワーは、東京駅を一つの大きな街ととらえ、駅が都市を変える・都市が駅になるというコンセプトのもと、JR 東日本が進める開発「東京ステーションシティ」プロジェクト第一弾として 2007 年に竣工しました。

開発コンセプトとして「情報を発信する場」「Research & Education」を掲げ、人々が集い、調査・研究ならびに教育を行う場として日本橋口の開発を行ったことから、ビル名称を「**サピアタワー**」としました。

「サピア」は、sapience（知恵）に場所を表す接尾語（-ia）を付した造語であり、知の情報発信拠点であることを表現しており、ホテル、オフィス、コンファレンス、店舗を備えた複合ビルです。

オフィス部分（8～26 階）には企業の他、大学がオフィスやキャンパスを構え（8～10 階）、様々な情報の集約・発信に相応しい構成となっており、集積しているからこそその情報発信や PR になる場を作ろうと、当社が企画しスタートしたのが「**東京オトナ大学**」です。

東京オトナ大学は 2011 年から始まり、今年で第 7 回目を迎えます。過去 6 回で約 4,200 名の皆さまにご来場いただき、毎年楽しみにしているとお声も頂戴しています。今後も皆さまの知的好奇心を満たせるようなイベントを継続して開催できるよう努めてまいります。

サピアタワー

■物件名称：サピアタワー

■所在地：東京都千代田区丸の内 1-7-12

JR 東京駅日本橋口直結、東京メトロ大手町駅 B7 出口直結

■階 数：地上 35 階 地下 4 階

■竣 工：2007 年 3 月

■用 途：オフィス、コンファレンス、ホテル、店舗

■フロア構成

27～34 階	ホテルメトロポリタン丸の内
8～26 階	オフィス 【協賛大学】 10 階：関西学院大学、甲南大学、東北大学、北海道大学、西南学院大学 9 階：関西大学、流通科学大学、産業能率大学 8 階：東京大学、立命館大学
7 階	クリニック
4～6 階	ステーションコンファレンス東京
1・3 階	店舗

